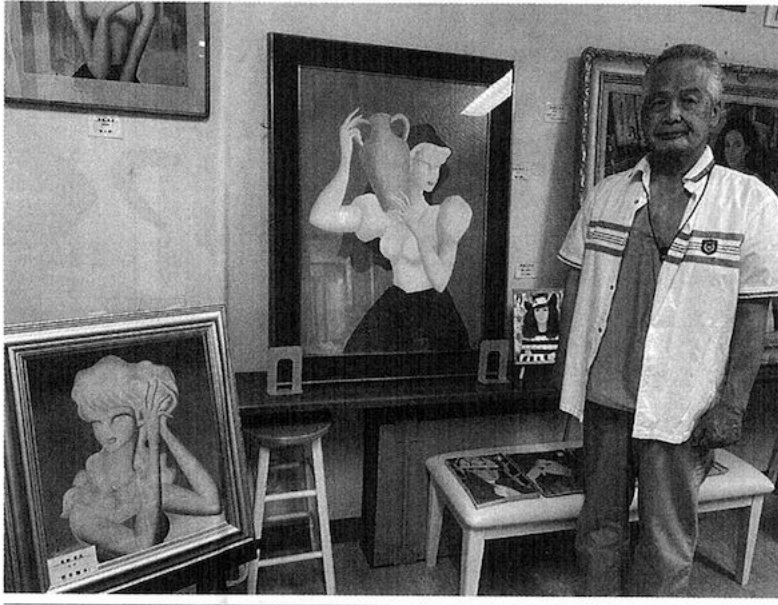


「東郷青児の世界」展

ギャラリー「繪悠館」でノベルテイーの数々 正木さんがコレクション公開

長年蒐集した絵画を多くの人に見てもらえる場として岩国市麻里布町5丁目の医師・正木康史さんが自宅近くに私設で開いたギャラリー「繪悠館(かいゆうかん)」(麻里布1丁目、水島眼科跡 岩国駅



から徒歩3分)で6月1日から「東郷青児の世界」ノベルテイーの数々」展が始まる。期間は9月16日まで。

若い頃から絵画好きだったという正木さんは35年かけて油絵などを蒐集してきた。総点数は400点に及ぶ。収蔵庫に入りきらなくなったことで私設ギャラリーをつくり、昨年9月にオープンした。

ギャラリーは約80平方メートルの広さ。自慢のコレクションを展示・紹介している。とりわけ思い入れが強いのは洋画家・東郷青児(1897〜1978年)の女性像。東郷は詩情あふれる美人画が一世を風びした。その作品は油絵やリトグラフにとどまらず、洋菓

東郷たまみの作品



子店の包み紙、買い物袋、本の装丁、化粧品のパッケージ、雑誌広告、雑貨デザイン、劇場の緞帳など、驚くほどバラエティ豊かに広がり、昭和の美人画の代表格となった。

東郷は二科展の発展にも尽くし、「二科会のドン」とも呼ばれ、没後、文化功労者として顕彰されている。その作品に惚れこんだ正木さんは東郷の油絵作品や、長女・東郷たまみの油絵作品を

東郷の美人画を集めた絵はがきシリーズ



東郷がデザインした日本レコード大賞のブロンズ像

はじめ、東郷作品をデザインした洋菓子(モロゾフなど)の包装紙、クッキー缶、絵皿、コーヒーカーップ、扇子、レコードジャケット、グラスセット、絵はがきなどを集めてきた。日本レコード大賞の受賞者に贈られた東郷デザインの



宇野千代コーナー

ブロンズ像は一級品のお宝。喫茶店のノベルティグッズはわざわざ京都に足を運んで買いたった。

岩国出身の作家・宇野千代は東郷をモデルに小説「色ざんげ」を書いていることから関係する作品や書籍をまとめた「宇野千代コーナー」も特設しており、見どころいっぱい。

繪悠館の名称は「ゆっくりと楽しんでいただきたい」と名付けた。今後も時機に合わせ展示作品を入れ替えることにしている。

常時開設はしないが、「観覧希望者は連絡してください」と話している。電話は090(3375)3600。